

令和3年度近江の地場産業および近江の地場製品の振興に関する施策の実施状況 【資料1】

▶ 施策の内容

【施策1】 近江の地場製品の**需要拡大**のための、新商品の開発に対する支援、情報の提供、新たな販路の開拓の促進等

【施策2】 近江の地場産業事業者等の**経営基盤強化**のための、経営改善および合理化、資金の供給の円滑化等

【施策3】 新商品開発等に係る**調査研究**、**多様な分野における事業展開**の促進

【施策4】 担い手となる人材の**確保**、**育成**、**資質向上**に対する支援、優れた**技術等の継承**の推進等

【施策5】 近江の地場産業および近江の地場製品に対する**関心および理解を深める**ための、普及啓発、多様な学習機会の提供等

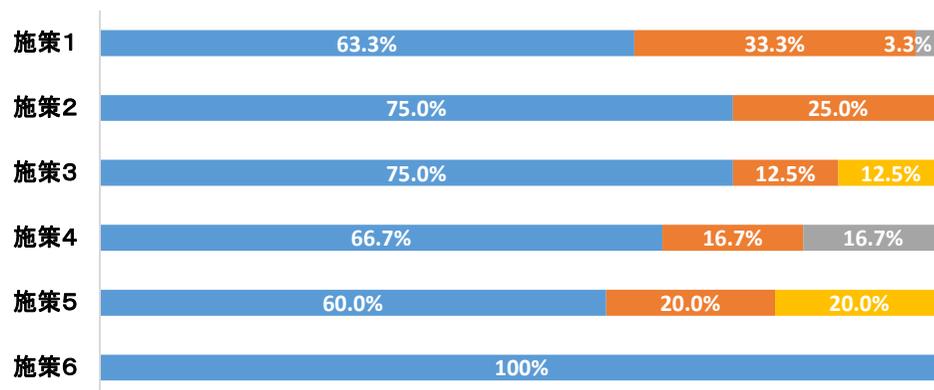
【施策6】 近江の地場産業および近江の地場製品に関する実態についての**定期的な調査**および分析

▶ 施策の事業数と決算額

施策	事業数	決算額 (千円)
施策1	37	302,604
施策2	7	56,358,448
施策3	11	166,016
施策4	13	55,329
施策5	10	343,538
施策6	1	25,937
合計	79	57,251,872

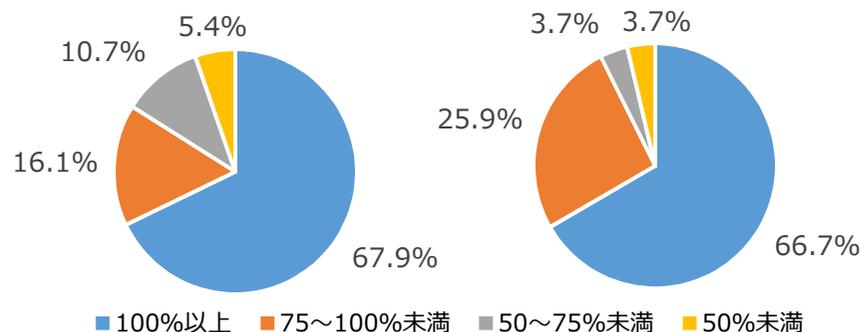
(同一の「施策の内容」内で再掲は除く)

▶ 各事業における設定目標の達成状況



【令和2年度達成状況 (合計)】

【令和3年度達成状況 (合計)】



施策ごとの評価・課題と方向性

【施策1】 近江の地場産品の**需要拡大**のための、新商品の開発に対する支援、情報の提供、新たな販路の開拓の促進等

▶評価

- ・オンラインやデジタルツールを活用し、展示会やPRイベント等、需要拡大のための事業はおおむね目標を達成。

伝統的工芸品等の技術の高さ・実用性・美といった価値を広く県民に伝えることを目的に、令和3年11月12～14日にイオンモール草津にて開催。伝統的工芸品・地場産業事業者から13事業者が出展。展示販売、製作実演、製作体験を実施。

「周知を図ることができた」と感じた出展事業者の割合 目標：80% 実績：92% （通番3）

商談ツールとしてのショートムービーの作成や、「滋賀地酒10,000人プロジェクト」のオンライン開催を実施。

「滋賀地酒10,000人プロジェクト」参加人数 目標：10,000人 実績：11,109人

商談件数 目標：50件 実績：96件 （通番6）

新型コロナウイルスの影響により海外展示会出展を断念（通番4、27）、また緊急事態宣言発令およびまん延防止等重点措置によって「ここ滋賀」は休館、営業時間の短縮を余儀なくされた。

「ここ滋賀」来館者数 目標：45万人 実績：25,321人 （通番15）

▶課題

- ・社会情勢を注視しながら、時代の変化に対応した効果的で継続的な需要拡大策が今後必要。
- ・社会的課題（SDGs等）を意識した取組への支援が必要。

▶方向性

- ・BtoBからBtoC（ECサイトの構築・運用等）への転換方法の習得について支援を実施。
- ・海外展開のための商品開発、商談の機会、経費等について、継続した支援を実施。
- ・マーケティングや展示会による消費者ニーズの吸い上げに対する支援。
- ・市場ニーズに対応した新商品開発に対する支援。

施策ごとの評価・課題と方向性

【施策2】 近江の地場産業事業者等の経営基盤強近江の地場産業事業者等に対する、国等の金融機関と協調した長期・低利の融資の活用促進のための、経営改善および合理化、資金の供給の円滑化等

▶ 評価

- ・補助金や融資の活用の支援はおおむね目標を達成。

小規模事業者が策定する滋賀の魅力(しがの資源)を活用した新たな取組に関する計画に従って実施する事業のうち、事業化・市場化段階にある事業について経費の一部を助成。

新商品市場化または販路開拓が進んだと感じた事業者の割合 目標：80% 実績：100% (通番47)

▶ 課題

- ・事業者への制度の周知や事業者が利用しやすい制度の運用が必要。

▶ 方向性

- ・事業者の様々な資金需要に応えるための制度改正や、補助金や融資の周知や申請の補助の充実。

【施策3】 新商品開発等に係る調査研究、多様な分野における事業展開の促進

▶ 評価

- ・公設試等による技術開発については目標を達成しているが、研修を含む事業については新型コロナウイルスの影響により実施が困難なものがあつた。

県内陶磁器製造企業に対し、デジタル技術を活用した商品開発のために3D技術に関する講習会や実習を実施。
育成のべ人数 目標：30人 実績：31人 (通番56)

▶ 課題

- ・市場化にむけての技術開発や技術の確立が必要。

▶ 方向性

- ・市場ニーズに対応した新商品開発に対する調査研究と普及の支援。

施策ごとの評価・課題と方向性

【施策4】 担い手となる人材の確保、育成、資質向上に対する支援、優れた技術等の継承の推進等

▶評価

- ・新型コロナウイルスの影響により変更となった事業もあったが、セミナーや研修などの支援についてはおおむね目標を達成している。

窯業技術者育成のため、小物口ク口科4名、素地釉薬科1名の研修生を受け入れ専門研修を実施した。
研修受講者数 目標：7名 実績：5名 （通番70）

就農相談員の設置による就農相談、就農希望者を対象とした就農準備講座の開催により新規就農者の確保を推した。
就農相談員による相談件数 目標：120件 実績：137件 （通番71）

▶課題

- ・継続的・定期的な研究や研修が必要。
- ・事業者の要望に即した研修やサポート体制の充実が必要。

▶方向性

- ・産地を支える担い手確保および育成にかかる取組に対する技術面・資金面での支援。

【施策5】 近江の地場産業および近江の地場産品に対する関心および理解を深めるための、普及啓発、多様な学習機会の提供等

▶評価

- ・おおむね目標を達成した事業が大半である一方、新型コロナウイルスの影響により実施そのものが困難な事業があった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの中学校で地元企業での職場体験を実施できなかった。
全公立中学校において職場体験を実施した学校の割合 目標：100% 実績：16% （通番89）

▶課題

- ・オンラインを利用しながら、実態に応じた学習機会の提供が必要。

▶方向性

- ・関係者との連携により「体験」の機会を増やす。

施策ごとの評価・課題と方向性

【施策6】 近江の地場産業および近江の地場産品に関する実態についての定期的な調査および分析

▶評価

- ・第二期基本指針策定のために実態調査を実施し、地場産業等の実態を把握・分析することができた。

▶方向性

- ・今後もおおむね5年をめぐりに、定期的な調査により地場産業等の実態を把握する。

▶令和3年度事業の様子



「滋賀県モノづくり・匠の技展」の様子（通番3）



オーストリアでのテストマーケティングの様子（通番4）



クラウドファンディング支援の様子（通番39）

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	令和3年度の 実績値 (目標値)	達成度%	最終目標値 【事業の 最終年度】			
(1)近江の地場産品の需要拡大のための、新製品の開発に対する支援、情報の提供、新たな販路の開拓の促進等(45事業)														
ア 近江の地場産品のPRイベントや地産地消を推進するキャンペーンの実施、近江の地場産業事業者等のPR活動に対する支援(14事業)														
1		「発酵産業」成長促進化プロジェクト事業	多様な主体でつながるプラットフォームを構築し、発酵を軸とした新たな商品・サービスの創出を支援するとともに、認知度向上に向けた施策を展開する。	補助金を活用した事業者支援に加え、認知度向上に向けたオフラインイベントの開催や、デジタルコンテンツの作成・発信を実施。				地域の資源や素材を活かした発酵産業の創出を図るため、県内事業者による発酵を軸とした新たな商品・サービスの開発や販路拡大、認知度向上に向けた取組を支援する。				29,171	商工政策課	-
				プロジェクト 件数 (10件)	- (-)	- (-)	- (-)	11件 (10件)	140% 14件 (10件)	10件 【R02年度】				
2		伝統的工芸品月間等参加事業	伝統的工芸品産業の振興を図るため、(一財)伝統的工芸品産業振興協会が実施する伝統的工芸品月間事業と全国伝統的工芸品展に参加する。	○伝統的工芸品月間事業 出展者：近江上布・信楽焼 開催期間：11月27日(土)～29日(月) ○全国伝統的工芸品展 開催期間：2月17日(木)～23日(水・祝) 開催場所：東武百貨店池袋8F 出展者：近江上布、信楽焼 近江真綿、上丹生木彫、ろくろ工芸品、和ろうそく				引き続き、伝統的工芸品月間事業等へ参加し、県内伝統的工芸品のPRに努める。				2,399	モノづくり振興課	17
				WAZA展への出展を通して「販路開拓につながった」と感じた事業者の割合	- (-)	- (-)	20% (80%)	80% (80%)	83% 66% (80%)	- 【 】				
3		「滋賀県モノづくり・匠の技展」開催事業	伝統的工芸品等の、手仕事の技術の高さ・実用性・美といった価値を広く県民に伝えるため、体験・実演・展示・販売の総合的な取組を実施する。	○「滋賀県モノづくり・匠の技展」 開催期間：11月12日(金)～14日(日) 開催場所：イオンモール草津1階セントラルコート 出展者：伝統的工芸品・地場産業から13事業者 内容：展示販売、製作実演、製作体験等				引き続き、県内伝統的工芸品や地場産業を広くPRし、認知度とイメージの向上を図るために展示販売会を実施する。				2,774	モノづくり振興課	-
				「周知を図ることができた」と感じた出展事業者の割合(80%)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	115% 92% (80%)	- 【 】				

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
4		創 近江の地域産業振興 総合支援事業	地場産業組合等が実施する 海外の販路開拓、持続的発 展に向けた後継者育成や国 内での販路拡大等、ブラン ド力向上を目指した取り組 みを支援する。	<p>○地域産業総合推進事業 施策推進協議会や地場産業表彰を実施した。</p> <p>○地場産業事業者等販路開拓応援事業 デザイナー等の専門家を事業者の元に派遣し、 海外に向けたマーケットインでの商品開発や販路 開拓をの取組を支援した。</p> <p>○地場産業組合等指導支援補助金 滋賀県中小企業団体中央会が地場産業の振興を 目的にして行う新事業創出のための啓発活動や指 導事業等に対して助成した。</p> <p>○地場産業組合等海外展開戦略等支援補助金 国内外の販路開拓や後継者育成に取り組んだ組 合に対して助成した。</p> <p style="text-align: center;">等</p>				<p>・近江の地域産業振興総合支援事業については1/2 の補助率であるが、零細な組合にとっては、1/2の 自己負担を負担することが困難なところもある。</p> <p>・各組合が希望する補助内容は多岐にわたることか ら、組合だけではなく事業者の要望に直接対応できる 支援の充実を検討する必要がある。</p> <p>・より効果的に実施できるよう、内容や発信方法につ いて絶えず改善を続ける必要がある。</p> <p>・継続的、定期的に事業を実施することが認知度向上 には重要である。</p> <p>・コロナによって展示会等を延期したものがあ る。</p>				25,937	モノづくり振興課	27 69 92
				新商品開発等 ブランド強化 に取り組んだ 事業者数	15組合 (10組合)	16組合 (12組合)	14組合 (12組合)	14組合 (14組合)	100%	- 【 】	-			
5		近江の地場産品購入 によるおもてなし向 上事業費補助金	これまで地域の人々の生活 に密着し、受け継がれてき た近江の地場産品と県内宿 泊施設・飲食店の事業者を 一体的に支援するため、滋 賀らしいおもてなしを目的 に県内宿泊施設・飲食店が 近江の地場産品を購入する 経費に対し補助する。	<p>県内宿泊事業者・飲食店81者が近江の地場産品を 購入し、産地支援に寄与した。</p>				<p>近江の地場産品の活用事例を県のホームページで紹 介するなど近江の地場産品の魅力発信を行う。</p> <p>また、近江の地場産品の価値を広く伝え、一層の振 興を図るため効果的な事業を検討していく。</p>				49,959	モノづくり振興課	50
				-	- (-)	- (-)	- (-)	30件 (-)	81件 (-)	- 【 】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)			課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲		
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】				備考	
6		創 近江の地酒文化普及 事業	近江の地酒に関する魅力を発信し、県民等の近江の地酒に対する愛着を高め、地酒でもてなす機運を醸成することで新たなファン獲得や需要の掘り起こしを行い、滋賀への誘客促進や関係人口の創出を図る。	○ WebARの技術を活用し、近江の地酒をPRするコースターを作成。県内の飲食店やここ滋賀などに配布し、地酒のファン獲得に繋げた。	○ コロナ禍で直接的な商談が難しいため、商談等に繋げるショートムービーを作成し、オンライン等で各蔵元を紹介した。	○ 「滋賀地酒10,000人乾杯プロジェクト」をオンライン配信により実施し、昨年度を上回る11,109人の参加があった。	○ コロナ禍で直接的なイベントや商談が難しい中、オンライン等も活用し、効果的に近江の地酒の魅力を発信していくことが必要。	○ 令和4年4月にG I「滋賀」が指定されたことを契機に近江の地酒のブランド化と需要の拡大を推進する。	111%	11,109人 (10000人) 96件 (50件)	【10000人】	R03から新たな目標を設定	2,941	観光振興局	80
				・「滋賀地酒10,000人乾杯プロジェクト」参加者10,000人 ・商談件数：50件											
7		創 食べて健康「滋賀の野菜」消費拡大事業	民間事業者等と連携して、県産野菜等の新しい食べ方提案や食べられる店舗の見える化を図り、消費者の日常生活の多様な場面（内食、中食、外食）で県産野菜等の魅力を感じられる機会を創出し、その消費拡大を図る。	○「滋賀めし」メニューコンテストの開催（応募数97件）	○県産野菜を使用したメニューフェアの開催（11～12月、県内40事業者参加）	○野菜PR資材（POP）作成	○クックパッドレシピ掲載（74レシピ）	○民間企業との連携 平和堂で惣菜提供（びわこの日）、カゴメ（「滋賀めし」メニューコンテスト）など	○「内食」「中食」「外食」と様々なシーンで消費者の野菜の摂取量増に対する意識・行動変容を促すため、引き続きメニューフェアやコンテストを通じて県産野菜の消費拡大を推進する。	127%	60事業者 【R05年度】	5,800	食のブランド推進課	20	
				県産野菜を継続して提供・PRする飲食事業者数											- (-)

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
8		「滋賀の幸」サプライチェーン構築支援事業	生活と生産が距離的に近い特徴を持つ滋賀らしさを活かし、安定的な市場流通に加え、直売所等の機能強化や通販等の多様なサプライチェーンの実現を図る。	○ICT活用研修会の開催 計6回、38名参加 ○アドバイザー派遣 計26回(計22事業者)派遣 ○補助金の活用 14事業者で活用 ○担い手の確保等サプライチェーンの強化に取り組んだ直売所 5か所				-				4,048	食のブランド推進課	-
				サプライチェーンの強化に取り組む事業者等	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	95% 19事業者 (20事業者)	- (-)				
9		近江米消費拡大推進事業	関係団体等と連携し、世代やターゲットごとに新たな食べ方提案やエビデンス等に基づいた近江米の魅力を発信する。また、消費者が自ら近江米の魅力を発信することで近江米のファンをさらに広げる。	○ラジオ生放送特番(11/6放送) 近江米PR隊長による近江米や米食の魅力をPR ○「#わたしの近江米」ラジオコーナー(8/20~11/5)計12回 ○「#わたしの近江米」写真投稿キャンペーン(8/10~10/31)投稿数126 ○動画コンテンツ作成 子育て世代向け(9/1 YouTube公開) 若年層向け(2/10 YouTube公開)				○全国的に米の消費量は年々減少減少しており、特に家庭や若年層の消費の減少が顕著であることから、今後も県内での消費拡大PRイベントの開催やインターネットを活用したPR等により、より熱心な近江米のファンを確保する。				3,200	食のブランド推進課	82
				消費者によるSNS等への近江米魅力発信の投稿数	- (-)	- (-)	- (-)	415 (-)	108% 541 (500)	1500 【R05年度】				

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
10		”ブランド近江牛” 流通パワーアップ事業	近江牛の流通を拡大するため、県内外での広告等によるPRを行うなど、関係団体が実施する近江牛をPRする取組に対して支援する。	近江牛の関連団体が実施する、近江牛販売キャンペーンの実施や販促につなげる冊子の作成など、近江牛販売店等関連企業の活性化につながる取組に対して支援した。				新型コロナ感染持続により、外食産業やインバウンドでの需要が激減する一方で、通信販売やふるさと納税による需要が増えるなど、近江牛の消費動向も変化しつつあることから、今後の社会情勢を注視しながら、時代の変化に対応した効果的な流通拡大策が必要。				919	畜産課	83
				近江牛の指定 店舗数	307店舗 (282店舗)	296店舗 (315店舗)	303店舗 (320店舗)	289店舗 (300店舗)	97%	292 (300店舗)	300店舗 【R03年度】			
11		創 しがの漁業魅力発信 スキルアップ事業	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、担い手の販売スキル向上のための意識醸成、学びあいの場を提供するとともに、就業希望者の受け入れ態勢の充実、湖魚取扱い情報の発信を図る。	○担い手自身がニーズを意識した漁業経営や情報発信等のスキル等の向上を図るため、飲食店等と連携して湖魚食材を使ったフェアを開催した。 ○漁業への就業相談、短期の体験研修、半年間程度の漁労技術等の研修を実施した。 ○琵琶湖八珍等のびわ湖のめぐみに関する情報を発信。				【課題】 ・担い手自身の経営スキルや情報発信スキル等の向上。 【今後の取組】 ・担い手と飲食店等とが連携した湖魚を使ったフェア実施や情報発信。 ・担い手の総合的な経営能力向上につながる機会の創出。				13,780	水産課	45 67 76
				びわ湖産魚介類 を活用する事業 者数	191 (150)	220 (180)	235 (200)	245 (200)	96%	245 (256)	300 【R07年度】			
12		水産物流通促進対策 事業	滋賀県水産加工業協同組合が実施する湖魚の普及宣伝活動に対して支援する。	○滋賀県水産加工業協同組合が行う琵琶湖の魚介類の普及宣伝活動に対して支援を行った。主な活動として横浜で開催された「さかな文化祭」に出展した。				【課題】 琵琶湖の魚介類のおいしさを広く周知するとともに、イメージ向上とその定着を図るため、コロナ禍にも対応した継続的な取組が必要。 【今後の取組】 ・滋賀県水産物加工品品評会の継続的な開催 ・琵琶湖の魚介類のPR及び情報提供				500	水産課	39 44
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【 】			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
13		しがの水産物流通拡大対策事業	「びわサーモン」の特徴を広く周知するとともに、イメージの向上と定着を図るため、PR活動や新たなメニュー開発などを実施。	○びわサーモン振興協議会の実施する一般や飲食店等に対するPR活動等に対して支援を行った。主な活動として、大学生協と連携してのびわサーモン丼の提供、醒井養鱈場での試食配布等を実施した。				【課題】 ・「びわサーモン」のブランド定着を図るため、その特徴を広く周知するとともに、コロナ禍にも対応した継続的な取組が必要。 【今後の取組】 ・PRも兼ねた新たな販路の開拓。 ・新たなびわサーモンの商品開発および提供 ・消費者に向けたびわサーモンの情報発信				200	水産課	-
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【 】	-			
14		滋賀のくすり振興対策事業	「滋賀のくすり」のイメージアップを図り、販路を拡大するための啓発活動に対して支援する。	○(一社)滋賀県薬業協会が行った滋賀のくすり販売促進活動事業を支援した。(補助金)				○「滋賀のくすり」の販売を促進するために、啓発資料の作成やミニくすり展の開催は有用であるため、引き続き事業を支援する必要がある。				500	薬務課	-
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【 】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲	
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】				備考
イ 首都圏情報発信拠点等を活用したPRイベントの開催等、首都圏における近江の地場産業事業者等の販路開拓等取組支援(10事業)															
15	イ	創	ここ滋賀推進事業	滋賀の魅力を実際に見て、触れて、食べることができる体験型の発信を行うとともに滋賀への誘引の役割を担う情報発信拠点「ここ滋賀」を運営する。あわせて、「ここ滋賀」外への販路拡大に向けた支援や、首都圏での滋賀ファンの拡大などにも取り組む。	○緊急事態宣言発令に基づく休館を約1か月、まん延防止等重点措置等に基づく営業時間短縮等の措置を挟み、年間の来館者数252,321人(R3.4~R4.3)、達成率56.0%(目標値:450,000人) ○テストマーケティングを実施し、東京・日本橋の店舗における対面販売を通じて、都内消費者の反応や生の声を聞き、商品開発や商品改善につなげる機会を提供。 ○「ここ滋賀」外への取組として、ここ滋賀の商品等を首都圏の百貨店やスーパー、ECサイト等に売り込む事業も展開している。				○令和4年度より「ここ滋賀」第2期運営を開始。 ○県産品の販売促進や販路開拓、首都圏での展示会・即売会等の開催支援など、県内事業者との連携を強化する。				186,818	観光振興局 (ここ滋賀)	-
					「ここ滋賀」の 来館者数	272,285 (187500人)	575,375 (40.5万人)	440,229 (45万人)	243,831 (45万人)	56%	252,321人 (45万人)	45万人 【R03年度】			
16	イ	創	「ココクール」魅力発信事業	68の選定事業者に対し、県の支援策終了後も、「ココクール」を契機とした「新たなチャレンジ」に自立的・自発的に取り組むための施策を総合的に実施する。	選定事業者の今後の取組やウィズコロナ時代における販路開拓の支援を目的に、オンライン商談会(9月~10月)、交流会(11月14日)、期間限定販売(12月6日~12日)を実施。				68の選定事業者に対し、「ココクール」を契機とした「新たなチャレンジ」を促していく。				4,990	商工政策課	-
					商談成立件数 (20件)	- (-)	- (-)	12店舗 (12店舗)	23件 (20件)	92%	23件 (25件)	25件 【R03年度】			
17	イ	創	伝統的工芸品月間等参加事業(再掲)	伝統的工芸品産業の振興を図るため、(一財)伝統的工芸品産業振興協会が実施する伝統的工芸品月間事業と全国伝統的工芸品展に参加する。	○伝統的工芸品月間事業 出展者:近江上布・信楽焼 開催期間:11月27日(土)~29日(月) ○全国伝統的工芸品展 開催期間:2月17日(木)~23日(水・祝) 開催場所:東武百貨店池袋8F 出展者:近江上布、信楽焼、近江真綿、上丹生木彫、ろくろ工芸品、和ろうそく				引き続き、伝統的工芸品月間事業等へ参加し、県内伝統的工芸品のPRに努める。				(再掲)	モノづくり振興課	2
					WAZA展への出展を通して「販路開拓につながった」と感じた事業者の割合	- (-)	- (-)	20% (80%)	80% (80%)	83%	66% (80%)	- 【 】			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)			課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
18		環境こだわり農産物 流通拡大事業	環境こだわり農産物の有利 販売・流通拡大を目指し、 「環境こだわり米コシヒカ リ」の集荷・流通促進や高 付加価値販売のための取組 等に対して支援する。		・環境こだわり米こしひかりの精米袋への補助を 通じて、米販売業者のECサイトにおいて、定番 商品として販売いただくことができた(1社)。 ・また、事業を活用し、販促物を作成いただきさ らなる販促を進めることができた(1社)。		引き続き、関係団体と連携し、さらなる流通事業者に 対する取り扱い拡大に向けた働きかけを強化する。コ ロナ感染症拡大により、量販店での対面販売等の販促 活動は制限されるが、引き続き、「環境こだわり米コ シヒカリ」の商品化に加え、PRの支援を行うことで、 流通量の増加を図る。		731	食のブランド推進課	-		
				環境こだわり米 コシヒカリの作 付面積	- (-)	- (-)	4,718ha (5,250ha)	4,552ha (-)	4,502ha (-)	6,000ha以上 【R04年度】			
19		つなげる！応援店 「滋賀の食材」県外 プロモーション事業	首都圏や京阪神において、 ホテル・飲食店等と県内生 産者等との継続的な関係構 築をめざし、滋賀食材の認 知度向上、消費拡大を図 る。		○首都圏メニューフェア ・メニューフェア<夏>：8/2～10/31実施。 (実施店舗)東京の飲食店等21店舗 (滋賀食材)約20品目(みずかがみ、近江牛、 ビワマス、近江の茶、杉谷とうがらし、愛東ぶど う、いちじくなど) ・メニューフェア<冬>：2/14～3/25実施。 (実施店舗)東京の飲食店等21店舗 (滋賀食材)約20品目(みずかがみ、近江牛、 氷魚、ビワマス、近江の茶、伊吹大根、葱など) ○京阪神メニューフェア ・メニューフェア：1/15～2/14実施。 (実施店舗)京阪神の飲食店10店舗 (滋賀食材)近江牛、伊吹そば、ホンモロコ、 みずかがみ、万木かぶなど		飲食店と生産者の継続的な関係構築については、産地 訪問等により一定効果が見込まれているが、今後より 一層滋賀食材の認知度向上、消費拡大を図るために、 どのような事業展開をしていくか検討する必要がある。		11,486	食のブランド推進課	-		
				首都圏における 「おいしがうれ しが」推進店登 録店舗数(累計)	(-)	(-)	107店舗 (105店 舗)	113店舗 (110店舗)	101% 116店舗 (115店舗)	120店舗 【R04年度】	R01から新 たな目標を 設定		

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)			課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
20		創 食べて健康「滋賀の野菜」消費拡大事業	民間事業者等と連携して、県産野菜等の新しい食べ方提案や食べられる店舗の見える化を図り、消費者の日常生活の多様な場面(内食、中食、外食)で県産野菜等の魅力を感じられる機会を創出し、その消費拡大を図る。	○「滋賀めし」メニューコンテストの開催(応募数97件) ○県産野菜を使用したメニューフェアの開催(11~12月、県内40事業者参加) ○野菜PR資材(POP)作成 ○クックパッドレシピ掲載(74レシピ) ○民間企業との連携 平和堂で惣菜提供(びわこの日)、カゴメ(「滋賀めし」メニューコンテスト)など			○「内食」「中食」「外食」と様々なシーンで消費者の野菜の摂取量増に対する意識・行動変容を促すため、引き続きメニューフェアやコンテストを通じて県産野菜の消費拡大を推進する。				(再掲)	食のブランド推進課	7
				県産野菜を継続して提供・PRする飲食事業者数	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	127% 55事業者 (43事業者)	60事業者 【R05年度】			
21		オーガニック米等販路開拓事業	関係団体と連携し、まとまった需要が見込める首都圏等で、統一デザインを用いた「オーガニック近江米」等の販路開拓を進める。	首都圏における販路開拓マネージャーの設置やオーガニックEXPOへの出展等を通じて販路開拓を進めるとともに、量販店において統一デザインの米袋を用いた販売を実施した。現在も新たな販路の開拓や新商品の開発に向けた検討を進めているところ。			「オーガニック近江米」については、首都圏等での展示会への出展等による情報発信により、消費者・実需者の方々に興味を持っていただいているものの、それに見合った生産量が確保できていないなどの課題があることから、関係者と連携・調整しつつ、引き続き販路開拓・流通拡大および生産拡大を進める。				5,400	食のブランド推進課	-
				オーガニック農業(水稻)作付面積(ha)	- (-)	- (-)	- (-)	237ha (190ha)	112% 267ha (240ha)	300ha 【R04年度】			
22		創 みんなで築く「おいしいオーガニック茶」産地育成事業	海外への市場開拓を進めるとともに、消費者の安全・安心志向に応え、ブランド力を持った「近江の茶」産地の育成を図るため、高品質なオーガニック栽培による茶生産の取組を支援する。	○高品質有機栽培技術の確立試験を茶業指導所において実施 ○甲賀市の2産地において、品質向上を図るための技術実証ほの設置および品質評価を実施。また産地の生産・製茶体制等の整備に向けた産地検討会を開催。 ○東近江市の1産地において、生産拡大のための展示ほの設置および研修会を開催。			○依然として有機茶と慣行茶の品質差があるため、うま味向上に向けた技術確立および産地での実証を継続。 ○甲賀市については品質向上と併せて集荷・製茶体制等の仕組みについて引き続き検討し、オーガニック茶の流通拡大を図る。 ○東近江市以外の小規模産地におけるオーガニック茶生産拡大に向けた取組を進める。				3,015	農業経営課	38 60
				「近江の茶」輸出货量(t)	- (-)	2.4t (6t)	6.5t (8t)	0.9t (10t)	- (-)	10t 【R02年度】			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	令和3年度の 実績値 (目標値)	達成度%	最終目標値 【事業の 最終年度】			
23		しがの力強い水田農業確立推進事業	農業所得の最大化に向け、近江米振興協会や各産地が実施する需要の変化に対応する米づくりや自給率の向上が求められる麦・大豆の本作化等の取組を支援するとともに、新たな需要を切り拓くための新品種の育成等を加速する。	○令和3年産米食味ランキングでの「みずかがみ」と「コシヒカリ」での「特A」取得に向け、近江米振興協会が実施するプロジェクト活動を支援した。食味ランキングの発表は3月の予定。 ○JAが行う水稲・麦・大豆の品質・食味向上や新品の導入等の活動を支援した。(7JA)				・不作となると、米の販売数量が確保できず需要実績が低下することから、需要の維持向上とともに、安定した生産を確保する必要がある。 ・このため、関係団体等との連携のもと、令和4年産米において、食味ランキングで「コシヒカリ」「みずかがみ」の「特A」取得をはじめ、気候変動に対応した栽培管理を徹底し、安定した生産と供給に向けた取組を強化する。				22,557	食のブランド推進課 ・農業経営課	-
				全国の主食用米需要量に占める近江米のシェア(直近3年平均)	- (-)	- (-)	2.10% (2.13%)	2.13% (2.14%)	98% 2.11% (2.15%)	2.15% 【R03年度】				
24	創	多様で革新的な流通モデル実践事業	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、漁業組織が経営スキルの強化を目的に、流通事業者と連携して湖魚の新たな流通モデルの検討・実践を行う取組を支援する。	○滋賀県漁業協同組合連合会が実施する湖魚のマーケティング調査、首都圏等へのヒウオのテスト流通等の流通モデルの検討の取組へ支援。				・湖魚流通、特に流通業者間の実態の把握 ・取扱魚種の拡大や湖魚の集荷体制や運搬流通体制等も含む新たな流通の検討と試行				6,000	水産課	-
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
ウ 近江の地場産業事業者等の海外展開戦略に係る取組支援(4事業)														
25	海外展開総合支援事業	「①友好協定やMOUに基づき築き上げてきた諸外国とのネットワークを活かした経済交流の促進」、「②ジェトロ滋賀等の関係機関と連携した県内企業への総合的な海外展開支援」を組み合わせ、新型コロナ等によるビジネス環境の変化に対応した新しい海外展開事業に取り組む県内企業等を総合的に支援し、海外展開を通じた経営の強化や反転攻勢への取組を後押しする。	ジェトロ滋賀において、相対対応や企業訪問を通して、県内中小企業等の海外展開をきめ細かに支援。本県が覚書を締結する海外機関との関係を生かして県内中小企業等の海外展開を支援。				新型コロナウイルスにより、渡航が制限され、リアルな海外展示会出展やミッション派遣・受入等が困難な状況であるため、ウェビナーやオンライン商談会など、オンラインを活用した企業支援に取り組む。				14,931	商工政策課	-	
			出張相談件数	497件 (46件)	1129件 (400件)	1015件 (400件)	313件 (400件)	83%	333件 (400件)	400件 【R03年度】				総合戦略事業
			海外見本市出展支援件数	16件 (20件)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	16件 【H29年度】				
海外現地(ホーチミン市等)企業支援件数	13件 (5件)	6件 (5件)	9件 (5件)	16件 (6件)	266%	16件 (6件)	6件 【R03年度】							
26	反転攻勢に向けた海外展開チャレンジ支援事業	ジェトロ滋賀貿易情報センター等と連携の上、新型コロナウイルス等によるビジネス環境の変化に対応した新しい海外展開事業にチャレンジする県内企業等を支援し、海外展開を通じた経営の強化や反転攻勢への取組を後押しする。	16件を採択し、海外展開に要する経費を助成。ジェトロ滋賀と連携し、事業計画策定や事業の進捗状況等のフォローアップを実施。				採択企業の進捗状況確認やフォローアップのため、ジェトロ滋賀と共に企業訪問等を行い、ヒアリング・事業に関するアドバイス等を行う。				15,897	商工政策課	-	
			支援件数	- (-)	5件 (4件)	8件 (4件)	7件 (6件)	114%	16件 (14件)	14件 【R03年度】				

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲	
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】				備考
27		近江の地域産業振興総合支援事業 (再掲)	地場産業組合等が実施するブランド力の向上、後継者育成、海外展開や販路拡大等の戦略的、持続的な取組に支援する。	○地域産業総合推進事業 施策推進協議会や地場産業表彰を実施した。 ○地場産業事業者等販路開拓応援事業 デザイナー等の専門家を事業者の元に派遣し、海外に向けたマーケットインでの商品開発や販路開拓をの取組を支援した。 ○地場産業組合等指導支援補助金 滋賀県中小企業団体中央会が地場産業の振興を目的に行う新事業創出のための啓発活動や指導事業等に対して助成した。 ○地場産業組合等海外展開戦略等支援補助金 国内外の販路開拓や後継者育成に取り組んだ組合に対して助成した。 等								(再掲)	モノづくり振興課	4 68 92	
				新商品開発等ブランド強化に取り組んだ事業者数	15組合 (10組合)	16組合 (12組合)	14組合 (12組合)	14組合 (14組合)	100%	15者 (15者)	- 【 】				-
28		世界に広げる「滋賀の食材」海外プロモーション事業	海外における滋賀県産食材・食品の販路拡充・需要拡大を促進する。 輸出戦略にそって、有望市場での認知度向上、販路拡大に取り組む。 輸出戦略にそって、有望市場での認知度向上、販路拡大に取り組む。	○台湾の高級デパートにおける滋賀県フェアの開催(9月～10月) ○ミンガンにおける近江の茶プロモーション展開 ○輸出に取り組む事業者への支援								4,411	食のブランド推進課	-	
			県内の新たに輸出に取り組む事業者数(累計)	18件 (10件)	24件 (25件)	39件 (30件)	51件 (45件)	128%	64件 (60件)	60件 【R03年度】	-				
エ 近江の地場産業事業者等に対する技術提供や共同研究、商品開発等の取組支援(11事業)															
29		びわ湖材産地証明事業	びわ湖材産地証明制度の運営および品質認定の取得を支援するとともに、新たな木材利用を普及啓発する。	○CLT建築物の情報提供等によりCLT等の普及促進を図るとともに、CLTや2×4等のびわ湖材の新たな利用を拡大するため、県外工場の認定促進や情報発信を行った。 ○県産木材活用推進協議会に対し、びわ湖材産地証明制度の運営を支援した。								2,971	森林政策課	41	
				びわ湖材証明を行った年間木材量	54,981m ³ (48,500m ³)	55,019m ³ (54,000m ³)	64,750m ³ (59,500m ³)	64,940m ³ (65,000m ³)	98%	61,820m ³ (62,800)	115,000m ³ 【R12年度】				琵琶湖森林づくり基本計画

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	令和3年度の 実績値 (目標値)	達成度%	最終目標値 【事業の 最終年度】			
30		コロナ対応モノづくり研究開発支援事業	中小企業が新プロジェクトを立案しチャレンジできる環境を整備することで、withコロナをはじめとした社会の多様なニーズに対する新製品や新技術開発を活性化し、開発されたものを事業化へつなげることに伴って、県内経済の向上につなげる。	○新製品等開発計画の認定等件数：22件 ○コロナ対応モノづくり研究開発補助金採択件数：23件				令和4年度は、プロジェクトチャレンジ支援事業を再開し、CO2ネットゼロ社会を実現するため、CO2削減につながる技術開発を積極的に採択するCO2ネットゼロ枠を新たに設け、県内企業のCO2ネットゼロに関連する技術開発を積極的に支援する。				84,164	モノづくり振興課	52
				中小企業の新製品等開発計画の認定等件数(9件/年)	25件 (24件)	34件 (32件)	41件 (40件)	19件 (8件)	22件 (9件)	244%	- (-)			
31		創 「近江の地酒」魅力向上支援事業	工業技術総合センターの支援の下で県内醸造所共通の課題解決のため香りと旨味と滋養らしさにこだわった商品開発や、安定・高品質な製品を製造するため新製品開発につながる技術支援を戦略的・短期集中的に実施して「近江の地酒」の技術・品質向上と消費拡大を技術面からサポートする。	○小規模醸造試験の前に、各種条件を様々な組み合わせで変えたビーカーレベルでの醸造試験と分析・評価（スクリーニング）を実施中も含め3回55試験実施して知見を得た。 ○これら分析データを元に醸造所が目指す最適条件を基に、小規模醸造試験ならびに実地醸造試験等（5社）を進めている。				引き続きビーカーレベルの醸造試験と小規模醸造試験、実地醸造試験を進め新商品・製品開発等に業界・メーカーと協働で取り組む。				5,105	工業技術総合センター	-
				新商品の開発	- (-)	- (-)	3 (2種類)	3 (2種類)	3 (2種類)	150%	- (2種類) 【R04年度】			
32		窯業技術研究開発事業	県内の陶磁器および窯業関連団体の技術支援および産業振興を目的に、新製品および新素材の研究開発を行う。	1.「陶磁器デザイン指導事業」等により、実施許諾10件、技術移転を4件と技術支援を行った。 2.「窯業系廃棄物を活用した園芸土木資材の開発」により、窯業系廃棄物（釉薬汚泥、アルミナ汚泥）活用した試作試験を実施。（試作品10件、新素材2件）				○引き続き、県内の陶磁器および窯業関連団体の技術支援および産業振興を目的に、各研究開発および報告書の作成、センター合同報告会（3月）の実施。 ○「新しい生活様式のための陶製品開発」により、年度末までには試作品7件を報告予定。				2,514	工業技術総合センター	56
				技術移転（特許出願、実施許諾を含む）、試作品開発、新素材開発件数	46件 (50件)	44件 (50件)	24件 (25件)	37件 (25件)	26件 (25件)	104%	25件 【R02年度】			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
33		地域産業育成指導事業	窯業関連事業者への技術情報の提供および窯業関連製品や素材の試験および研究を行う。	技術情報誌「陶」編集、「TEIBAN商品開発研究会」「信楽焼屋上緑化研究会」支援、機器開放、技術指導、生産物提供、製品・素材の研究開発を実施。				引き続き、技術情報誌「陶」発行、「TEIBAN商品開発研究会」「信楽焼屋上緑化研究会」支援、機器開放、技術指導、生産物提供、製品・素材の研究開発を実施。				5,294	工業技術総合センター	57
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			
34		「デジタル技術を活用した陶製品開発人材育成事業」(改称：継続事業)	県内陶磁器製造企業へのコロナ後の景気回復と技術支援を目的にデジタル技術を活用した商品開発のための人材育成を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・3D技術に関する講習と実習を実施(11月、講習8人実習7人の参加)。 ・技術指導および商品開発支援を実施。 				<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導として、3DCADの実習とCAMの実習を開催予定(2月)。 ・個別指導として、3Dスキャナーの実習を開催予定(3月)。 ・次年度もコロナ後の景気回復と技術支援を目的に3Dプリンタ等の最新機器による本事業を継続する。 				2,318	工業技術総合センター	56
				育成延べ人数 (30人) 商品の開発 (2件)	- (-)	- (-)	- (-)	1件 (1件)	100% 31人、7件 (30人、2件)	- 【-】	-			
35		ものづくり技術高度化事業	県内製造業で必要となる「ものづくり技術」の高度化を目指した技術開発と高性能・高機能な新規材料を創製し、企業の技術競争力強化、および新分野進出を支援する。	引き続き、地場・地域産業などのモノづくり技術の高度化に向けた研究に取り組む。				引き続き、研究成果について早期の事業化を目指す。				1,710	東北部工業技術センター	57
				-	3 (3テーマ)	3 (3テーマ)	3 (3テーマ)	3 (3テーマ)	100% 2 (2テーマ)	- 【-】	-			
36		技術移転・共同研究事業	当センターで開発した新技術の研究成果を企業などに移転するとともに、共同研究を実施することで、実用化に必要な種々の条件について検討を加え早期の企業化を目指す。	引き続き、研究成果について早期の事業化を目指す。				引き続き、研究成果について早期の事業化を目指す。				1,222	東北部工業技術センター	58
				産学官連携共同研究数	28件 (25件)	25件 (25件)	26件 (25件)	25件 (25件)	92% 23件 (25件)	- 【-】	組織目標			
技術普及件数	14件 (12件)	15件 (12件)	17件 (12件)	14件 (12件)	158% 19件 (12件)	- 【-】								

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
37		地域産業支援事業	地域産業の活性化を促進するため、地場産業の固有技術などの地域資源の活用やデザイン・感性の付加を行うとともに、センターの研究成果を活用することにより製品開発の支援を行う。					引き続き、地域産業の活性化促進に向けた支援を実施していく。コロナ対策としてウェブ開催も検討する。				1,525	東北部工業技術センター	59
				講習会等の開催数	22回 (17回)	23回 (20回)	21回 (20回)	14回 (20回)	100% 20回 (20回)	- 【-】	組織目標			
38		みんなで築く「おいしいオーガニック茶」産地育成事業 (再掲)	海外への市場開拓を進めるとともに、消費者の安全・安心志向に応え、ブランド力を持った「近江の茶」産地の育成を図るため、高品質なオーガニック栽培による茶生産の取組を支援する。	○高品質有機栽培技術の確立試験を茶業指導所において実施 ○甲賀市の2産地において、品質向上を図るための技術実証ほの設置および品質評価を実施。また産地の生産・製茶体制等の整備に向けた産地検討会を開催。 ○東近江市の1産地において、生産拡大のための展示ほの設置および研修会を開催。	○依然として有機茶と慣行茶の品質差があるため、うま味向上に向けた技術確立および産地での実証を継続。 ○甲賀市については品質向上と併せて集荷・製茶体制等の仕組みについて引き続き検討し、オーガニック茶の流通拡大を図る。 ○東近江市以外の小規模産地におけるオーガニック茶生産拡大に向けた取組を進める。						(再掲)	農業経営課	22 60	
				「近江の茶」輸 出量(t)	- (-)	2.4t (6t)	6.5t (8t)	0.9t (10t)	- (-)	10 t 【R02年度】				-
39		水産物流通促進対策 事業 (再掲)	滋賀県水産加工業協同組合が実施する湖魚の普及宣伝活動に対して支援する。	○滋賀県水産加工業協同組合が行う琵琶湖の魚介類の普及宣伝活動に対して支援を行った。主な活動として横浜で開催された「さかな文化祭」に出展した。	【課題】 琵琶湖の魚介類のおいしさを広く周知するとともに、イメージ向上とその定着を図るため、コロナ禍にも対応した継続的な取組が必要。 【今後の取組】 ・滋賀県水産物加工品評会の継続的な開催 ・琵琶湖の魚介類のPR及び情報提供						(再掲)	水産課	12 44	
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【 】				-

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	令和3年度の 実績値 (目標値)	達成度%	最終目標値 【事業の 最終年度】			
オ 情報発信ツールやインターネット等を活用した産地情報や産品情報のPR(6事業)														
40		滋賀の匠クラウドファンディング支援事業	クラウドファンディングを活用した新規顧客の獲得や販売拡大、新商品制作のための資金調達を目指す伝統的工芸品等事業者への支援をおこなう。	○参画事業者 (株)竹松商店(八幡丸竹工芸品) (株)永楽屋(彦根仏壇) (株)ヤブウチ(長浜縮緬) 2月よりクラウドファンディング開始				引き続きクラウドファンディングを活用した販路開拓を実施する。				2,856	モノづくり振興課	-
				クラウドファンディングの目標を達成した事業者の割合	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	100% 100%以上 (100%)	- 【-】				
41		びわ湖材産地証明事業(再掲)	びわ湖材産地証明制度の運営および品質認定の取得を支援するとともに、新たな木材利用を普及啓発する。	○CLT建築物の情報提供等によりCLT等の普及促進を図るとともに、CLTや2×4等のびわ湖材の新たな利用を拡大するため、県外工場の認定促進や情報発信を行った。 ○県産木材活用推進協議会に対し、びわ湖材産地証明制度の運営を支援した。				○CLT等の普及促進を図るとともに、びわ湖材の利用拡大するための研修会を開催。 ○びわ湖材産地証明制度の運営および日本農林規格(JAS)認定の取得を支援。				(再掲)	森林政策課	29
				びわ湖材証明を行った年間木材量	54,981m ³ (48,500m ³)	55,019m ³ (54,000m ³)	64,750m ³ (59,500m ³)	64,940m ³ (65,000m ³)	61,820m ³ (62,800)	98%	115,000m ³ 【R12年度】			
42		木育推進事業	木製玩具等の木育製品の活用を通じて木の良さや利用の意義を学んでもらい、暮らしの中で木を使い親しむ環境づくりを啓発することを通じて、びわ湖材の利用拡大を進める。	○木に触れ、親しんでもらう場を提供するため、普及啓発イベントを実施した。 ○保育施設等に木育製品を貸し出すことで、コロナ禍においても安心して木に触れる機会を提供した。 ○木育への理解を深めるための講座を行い、木育に必要な知識や体験の習得を行い、木の魅力を伝える人材の育成を行った。				○多くの人が木に触れ、親しむことのできる機会を提供し、木の良さを普及啓発する。 ○木育製品の貸出を通じて木の魅力発信を行う。 ○木育を推進するために、木の良さや利用の意義を伝える木育理解者の育成を図る。				6,080	森林政策課	-
				びわ湖材証明を行った年間木材量	- (-)	- (-)	64,750m ³ (59,500m ³)	64,940m ³ (65,000m ³)	61,820m ³ (62,800)	98%	115,000m ³ 【R12年度】			
43		伝統的工芸品産業振興事業	滋賀の伝統的工芸品を滋賀県伝統的工芸品に指定し、その振興を図る。	指定事項の変更9件、解除2件				引き続き、滋賀県伝統的工芸品の在り方を検討していく。				168	モノづくり振興課	-
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況(R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
44		水産物流通促進対策事業 (再掲)	滋賀県水産加工業協同組合が実施する湖魚の普及宣伝活動に対して支援する。	○滋賀県水産加工業協同組合が行う琵琶湖の魚介類の普及宣伝活動に対して支援を行った。主な活動として横浜で開催された「さかな文化祭」に出展した。				【課題】 琵琶湖の魚介類のおいしさを広く周知するとともに、イメージ向上とその定着を図るため、コロナ禍にも対応した継続的な取組が必要。 【今後の取組】 ・滋賀県水産物加工品品評会の継続的な開催 ・琵琶湖の魚介類のPR及び情報提供				(再掲)	水産課	12 39
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	達成度%	- (-)	【 】			
45		創 しがの漁業魅力発信スキルアップ事業 (再掲)	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、担い手の販売スキル向上のための意識醸成、学びあいの場を提供するとともに、就業希望者の受け入れ態勢の充実、湖魚取扱い情報の発信を図る。	○担い手自身がニーズを意識した漁業経営や情報発信等のスキル等の向上を図るため、飲食店等と連携して湖魚食材を使ったフェアを開催した。 ○漁業への就業相談、短期の体験研修、半年間程度の漁労技術等の研修を実施した。 ○琵琶湖八珍等のびわ湖のめぐみに関する情報を発信。				【課題】 ・担い手自身の経営スキルや情報発信スキル等の向上。 【今後の取組】 ・担い手と飲食店等とが連携した湖魚を使ったフェア実施や情報発信。 ・担い手の総合的な経営能力向上につながる機会の創出。				(再掲)	水産課	11 67 76
				びわ湖産魚介類を活用する事業者数	191 (150)	220 (180)	235 (200)	245 (200)	96%	245 (256)	300 【令和7年度】			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲	
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	令和3年度 の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】				備考
(2) 近江の地場産業事業者等の経営基盤強化のための、経営改善および合理化、資金の供給の円滑化等(7事業)															
ア 近江の地場産業事業者等の経営改善および合理化推進のための支援(5事業)															
46		中小企業経営革新支援事業	中小企業の新事業を促進するため、「中小企業等経営強化法」に基づく経営革新計画の承認および外部専門家による指導・助言を行うとともに、商品化、販路開拓等に要する経費の一部を助成する。	「市場化ステージ支援事業補助金企業化状況調査」による企業化率	93件 (95件)	133件 (125件)	162件 (155件)	40% (35%)	129%	45% (35%)	- (-)	R02より新規指標。R01までは経営革新計画の承認件数が指標。	10,557	中小企業支援課	-
47 に変更		小規模事業者新事業スタートアップ支援補助金	県内中小企業のうち9割を占める小規模事業者が策定する新たな取組に関する計画に従って実施する事業のうち、事業化・市場化段階にある事業について経費の一部を助成する。	新商品市場化または販路開拓が進んだと感じた事業者の割合	- (-)	100% (80%)	87% (80%)	95% (80%)	- (-)	- (-)	-			中小企業支援課	-
47		滋賀の魅力活用型ちいさな企業応援補助金	県内中小企業のうち9割近くを占める小規模事業者が策定する滋賀の魅力(しがの資源)を活用した新たな取組に関する計画に従って実施する事業のうち、事業化・市場化段階にある事業について経費の一部を助成する。	採択事業者9件中、事業完了1件								滋賀の魅力(資源)を活用する事業に新たに取り組もうとする小規模事業者を引き続き支援する。	3,565	中小企業支援課	-
				新商品市場化または販路開拓が進んだと感じた事業者の割合	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	100% (80%)	- (-)	-				

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	令和3年度 の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
48		小規模事業経営支援 事業費補助金	商工会、商工会議所および 商工会連合会が小規模事業 者のために行う経営改善普 及事業等に要する経費に対 して助成する。	商工会、商工会議所および商工会連合会が小規模 事業者のために行う経営改善普及事業等に要する 経費に対して助成した。				国や県により各種支援策が実施されており、引き 続き、施策周知や申請補助などの事業者支援を行 う。				1,397,485	中小企業支援課	-
				補助対象職員 の指導件数 (毎年)	88,233件 (77,000件)	85,857件 (77,000件)	82,471件 (77,000件)	91,895件 (87,000件)	79,767件 (87,000件)	92%	- (-)			
49		中小企業連携組織対 策事業費補助金	滋賀県中小企業団体中央会 が中小企業の組織化、育成 および指導のために行う事 業に要する経費に対し助成 する。	滋賀県中小企業団体中央会が中小企業の組織化、 育成および指導のために行う事業に要する経費に 対し助成した。				国や県により各種支援策が実施されており、引き 続き、施策周知や申請補助などの事業者支援を行 う。				96,862	中小企業支援課	-
				補助対象職員 の指導件数 (毎年)	4,084件 (3,900件)	4,174件 (3,900件)	5,192件 (3,900件)	4,907件 (4,200件)	5,421件 (4,300件)	126%	- (-)			
50		近江の地場産品購入 によるおもてなし向 上事業費補助金	これまで地域の人々の生活 に密着し、受け継がれてきた 近江の地場産品と県内宿 泊施設・飲食店の事業者を 一体的に支援するため、滋 賀らしいおもてなしを目的 に県内宿泊施設・飲食店が 近江の地場産品を購入する 経費に対し補助する。	県内宿泊事業者・飲食店81者が近江の地場産品を 購入し、産地支援に寄与した。				近江の地場産品の活用事例を県のホームページ で紹介するなど近江の地場産品の魅力発信を行 う。 また、近江の地場産品の価値を広く伝え、一層 の振興を図るため効果的な事業を検討していく。				(再掲)	モノづくり振興課	5
				-	- (-)	- (-)	- (-)	30件 (-)	81件 (-)	- 【 】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲	
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	令和3年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】				備考
		イ 近江の地場産業事業者等に対する、国等の金融機関と協調した長期・低利の融資の活用促進(2事業)													
51		中小企業振興資金貸付金	中小企業者の経営安定等を図るため、制度融資を実施する。	中小企業者の経営安定等を図るため、制度融資を実施した。(令和4年3月末現在：新規貸付3,017件)				中小企業者の様々な資金需要に応えられるよう制度改正を行う。				54,760,300	中小企業支援課	-	
				-	-	-	-	-	-	-	-				
52		水産振興資金融資基金預託金	漁業経営の近代化、経営の安定および合理化等に必要な資金の融資を行う。	○漁業経営の安定等に必要な資金の融資を行っている。				【課題】 滋賀県の漁業者が使用しやすいように、制度を運用する必要がある。 【今後の取組】 ・融資制度の周知と漁業者の資金ニーズに聞き取りを継続的に行い、随時、申請に応じて融資を行う。				39,720	水産課	-	
				-	-	-	-	-	-	-	-				

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度 の実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
(3)新商品開発等に係る調査研究、多様な分野における事業展開の促進(12事業)														
ア 公設試験研究機関を中心として、高度化、多様化するニーズに対応した新商品開発のための調査研究の推進(11事業)														
53		コロナ対応モノづくり研究開発支援事業 (再掲)	中小企業が新プロジェクトを立案しチャレンジできる環境を整備することで、withコロナをはじめとした社会の多様なニーズに対する新製品や新技術開発を活性化し、開発されたものを事業化へつなげることに よって、県内経済の向上につなげる。	○新製品等開発計画の認定等件数：22件 ○コロナ対応モノづくり研究開発補助金採択件数：23件				令和4年度は、プロジェクトチャレンジ支援事業を再開し、CO2ネットゼロ社会を実現するため、CO2削減につながる技術開発を積極的に採択するCO2ネットゼロ枠を新たに設け、県内企業のCO2ネットゼロに関連する技術開発を積極的に支援する。				(再掲)	モノづくり振興課	30
				中小企業の新製品等開発計画の認定等件数 (9件/年)	25件 (24件)	34件 (32件)	41件 (40件)	19件 (8件)	244% 22件 (9件)	- (-)	総合戦略事業 R02より目標 値変更			
54		窯業技術研究開発事業 (再掲)	県内の陶磁器および窯業関連団体の技術支援および産業振興を目的に、新製品および新素材の研究開発を行う。	1.「陶磁器デザイン指導事業」等により、実施許諾10件、技術移転を4件と技術支援を行った。 2.「窯業系廃棄物を活用した園芸土木資材の開発」により、窯業系廃棄物(釉薬汚泥、アルミナ汚泥)活用した試作試験を実施。(試作品10件、新素材2件)				○引き続き、県内の陶磁器および窯業関連団体の技術支援および産業振興を目的に、各研究開発および報告書の作成、センター合同報告会(3月)の実施。 ○「新しい生活様式のための陶製品開発」により、年度末までには試作品7件を報告予定。				(再掲)	工業技術総合センター	32
				技術移転(特許出願、実施許諾を含む)、試作品開発、新素材開発件数	46件 (50件)	44件 (50件)	24件 (25件)	37件 (25件)	104% 26件 (25件)	25件 【R02年度】	組織目標 (R01より指 標内容変更)			
55		地域産業育成指導事業 (再掲)	窯業関連事業者への技術情報の提供および窯業関連製品や素材の試験および研究を行う。	技術情報誌「陶」編集、「TEIBAN商品開発研究会」「信楽焼屋上緑化研究会」支援、機器開放、技術指導、生産物提供、製品・素材の研究開発を実施。				引き続き、技術情報誌「陶」発行、「TEIBAN商品開発研究会」「信楽焼屋上緑化研究会」支援、機器開放、技術指導、生産物提供、製品・素材の研究開発を実施。				(再掲)	工業技術総合センター	33
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場製品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度 の実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
56		「デジタル技術を活用した陶製品開発人材育成事業」(改称: 継続事業)	県内陶磁器製造企業へのコロナ後の景気回復と技術支援を目的にデジタル技術を活用した商品開発のための人材育成を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 3D技術に関する講習と実習を実施(11月、講習8人実習7人の参加)。 技術指導および商品開発支援を実施。 				<ul style="list-style-type: none"> 個別指導として、3DCADの実習とCAMの実習を開催予定(2月)。 個別指導として、3Dスキャナーの実習を開催予定(3月)。 次年度もコロナ後の景気回復と技術支援を目的に3Dプリンタ等の最新機器による本事業を継続する。 				(再掲)	工業技術総合センター	34
				育成延べ人数 (30人) 商品の開発 (2件)	- (-)	- (-)	- (-)	1件 (1件)	100% 31人、7件 (30人、2件)	- 【-】	-			
57		ものづくり技術高度化事業 (再掲)	県内製造業で必要となる「ものづくり技術」の高度化を目指した技術開発と高性能・高機能な新規材料を創製し、企業の技術競争力強化、および新分野進出を支援する。	引き続き、地場・地域産業などのモノづくり技術の高度化に向けた研究に取り組む。				引き続き、研究成果について市浮きの事業化を目指す。				(再掲)	東北部工業技術センター	35
				-	3 (3テーマ)	3 (3テーマ)	3 (3テーマ)	3 (3テーマ)	100% 2 (2テーマ)	- 【-】	-			
58		技術移転・共同研究事業 (再掲)	当センターで開発した新技術の研究成果を企業などに移転するとともに、共同研究を実施することで、実用化に必要な種々の条件について検討を加え早期の企業化を目指す。	引き続き、研究成果について市浮きの事業化を目指す。				引き続き、研究成果について市浮きの事業化を目指す。				(再掲)	東北部工業技術センター	36
				産学官連携共同研究数	28件 (25件)	25件 (25件)	26件 (25件)	25件 (25件)	92% 23件 (25件)	- 【-】	組織目標			
				技術普及件数	14件 (12件)	15件 (12件)	17件 (12件)	14件 (12件)	158% 19件 (12件)	【-】				

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度 の実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】			
59		地域産業支援事業 (再掲)	地域産業の活性化を促進するため、地場産業の固有技術などの地域資源の活用やデザイン・感性の付加を行うとともに、センターの研究成果を活用することにより製品開発の支援を行う。									(再掲)	東北部工業技術センター	37
				講習会等の開催数	22回 (17回)	23回 (20回)	21回 (20回)	14回 (20回)	100%	20回 (20回)	- 【-】			
60	創	みんなで築く「おいしいオーガニック茶」産地育成事業 (再掲)	海外への市場開拓を進めるとともに、消費者の安全・安心志向に応え、ブランド力を持った「近江の茶」産地の育成を図るため、高品質なオーガニック栽培による茶生産の取組を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ○高品質有機栽培技術の確立試験を茶業指導所において実施 ○甲賀市の2産地において、品質向上を図るための技術実証ほの設置および品質評価を実施。また産地の生産・製茶体制等の整備に向けた産地検討会を開催。 ○東近江市の1産地において、生産拡大のための展示ほの設置および研修会を開催。 				<ul style="list-style-type: none"> ○依然として有機茶と慣行茶の品質差があるため、うま味向上に向けた技術確立および産地での実証を継続。 ○甲賀市については品質向上と併せて集荷・製茶体制等の仕組みについて引き続き検討し、オーガニック茶の流通拡大を図る。 ○東近江市以外の小規模産地におけるオーガニック茶生産拡大に向けた取組を進める。 				(再掲)	農業経営課	22 38
				「近江の茶」輸出量(t)	- (-)	2.4t (6t)	6.5t (8t)	0.9t (10t)	- (-)	10 t 【R02年度】	-			
61		近江牛の生産性の効率化に関する研究	子牛生産から肥育出荷までを行う繁殖肥育一貫経営農家における効率的かつ生産性の高い飼養技術を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ○濃厚飼料の増給時期や、粗飼料の給与方法による影響について検討を実施 				<ul style="list-style-type: none"> ○高品質な近江牛を効率的に生産するため、引き続き飼養管理技術の確立に向けた研究を実施する。 				4,672	畜産課	-
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			
62		高品質近江牛づくり推進事業	畜産技術振興センターで生産した高品質の雌子牛を農家へ譲渡するため、育成牧場での優良繁殖雌牛の整備と効率的な改良を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○高品質雌子牛28頭を農家に譲渡 				<ul style="list-style-type: none"> ○優良な和牛子牛の県内生産を図るため、引き続き農家への高品質繁殖雌牛の譲渡を実施する。 				41,024	畜産課	-
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			
63		家畜の改良増殖と優良種畜の譲渡事業	近江しゃもの種卵を生産者へ供給する。	<ul style="list-style-type: none"> ○近江しゃもの種卵約24,000個を生産者に供給 				<ul style="list-style-type: none"> ○地場産品の「近江しゃも」の安定生産を図るため、引き続き種卵の供給を行う。 				3,630	畜産課	-
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲		
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度%	令和3年度 の実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】				備考	
		イ 新ビジネスの創造に向けた異分野・異業種の連携による商品開発等の促進(1事業)														
64		6次産業化ネットワーク活動推進事業	6次産業化の推進体制を整備するとともに、市町や農林漁業者が行う6次産業化のネットワークによる新商品開発や販路開拓などの取組、市町が行う戦略策定の取組を支援する。 また、農林水産業者や商工・観光等事業者、大学等が参画する農林水産業新ビジネス創造研究会を母体とした新ビジネス創造の取組を発掘・支援する。	○6次産業化プランナーの派遣 36件 ○6次産業化研修会の開催 共通講義 5回(延べ30名参加) テーマ別講義 9回(延べ54名参加) ○新ビジネス創造セミナーの開催 2回 ○新ビジネス創造プロジェクト活動の実践 4事業者						40%	毎年 10事業者 【R02年度】	-	19,600	農業経営課	-	
				新たな加工・販売等に取り組む実践者数(毎年)	10事業者 (10事業者)	15事業者 (10事業者)	11事業者 (10事業者)	5事業者 (10事業者)								

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
(4)担い手となる人材の確保、育成・資質向上に対する支援、優れた技術等の継承の推進等(15事業)														
ア 担い手となる人材の確保のための情報提供(4事業)														
65		地域連携型モノづくり人材育成事業	本県の窯業業界の振興を図るため、窯業技術者養成のための専門研修を実施する。	小物ロクロ科4名、素地釉薬科1名の計5名の研修生を受け入れた。				引き続き、窯業技術者養成のための専門研修と次年度研修生の選考試験(秋試験終了、冬試験を2月予定)を実施。				862	工業技術総合センター	70
				窯業技術者養成研修受講者数(毎年)	8名 (5名)	8名 (7名)	11名 (7名)	7名 (7名)	71% 5名 (7名)	7名 【R02年度】	-			
66		しがの農林水産業就業促進事業費	若い世代に就農・就業について情報を得る機会を提供し、農林水産業への関心を高め、新たな人材を確保する。	○滋賀県農業の最前線体感講座 滋賀県立大学の学生に対し2回、龍谷大学の学生に対し1回、農業者による出前講座を実施し、若い世代への就農・就業に関する関心を高めた(参加者数延べ242人)。 ○しがの農林水産業就業フェア 2月20日に1回実施した(参加者数80人)。				○一定の取組を実施できていることから、今後も継続して事業を実施していく。				1,070	農業経営課	-
				参加者数	- (-)	150人 (200人)	188人 (200人)	263人 (200人)	161% 322人 (200人)	200人 【R02年度】	-			
67		創 拡 しがの漁業魅力発信スキルアップ事業	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、担い手の販売スキル向上のための意識醸成、学びあいの場を提供するとともに、就業希望者の受け入れ態勢の充実、湖魚取扱い情報の発信を図る。	○担い手自身がニーズを意識した漁業経営や情報発信等のスキル等の向上を図るため、飲食店等と連携して湖魚食材を使ったフェアを開催した。 ○漁業への就業相談、短期の体験研修、半年間程度の漁労技術等の研修を実施した。 ○琵琶湖八珍等のびわ湖めぐみに関する情報を発信。				【課題】 ・担い手自身の経営スキルや情報発信スキル等の向上。 【今後の取組】 ・担い手と飲食店等とが連携した湖魚を使ったフェア実施や情報発信。 ・担い手の総合的な経営能力向上につながる機会の創出。				(再掲)	水産課	11 45 76
				新規漁業就業者(累計)	2人 (1人)	3人 (3人)	7人 (6人)	11 (10人)	200% 4人 (2人)	10人 【R07年度】	滋賀県農業水産業基本計画			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
68		製薬技術の向上支援事業	製薬等技術者の資質向上を図るための研修等を行う。									1324	薬務課	-
				○製薬等技術者の資質向上を図るため、受講者のスキルレベルに応じたセミナーを開催した。 【初任者向け】 薬業ビギナーセミナー 延べ4回 【初任者～中級者向け】 薬業eセミナー 延べ4回 【中級者～上級者向け】 薬業スキルアップセミナー 3回										
				-	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	【-】	-			
イ 後継者育成や技術継承のための取組の実施および支援(10事業)														
69		近江の地域産業振興総合支援事業 (再掲)	地場産業組合等が実施する海外の販路開拓、持続的発展に向けた後継者育成や国内での販路拡大等、ブランド力向上を目指した取り組みを支援する。									(再掲)	モノづくり振興課	4 27 92
				○地域産業総合推進事業 施策推進協議会や地場産業表彰を実施した。 ○地場産業事業者等販路開拓応援事業 デザイナー等の専門家を事業者の元に派遣し、海外に向けたマーケットインでの商品開発や販路開拓をの取組を支援した。 ○地場産業組合等指導支援補助金 滋賀県中小企業団体中央会が地場産業の振興を目的にして行う新事業創出のための啓発活動や指導事業等に対して助成した。 ○地場産業組合等海外展開戦略等支援補助金 国内外の販路開拓や後継者育成に取り組んだ組合に対して助成した。 等										
				新商品開発等 ブランド強化 に取り組んだ 事業者数	15組合 (10組合)	16組合 (12組合)	14組合 (12組合)	14組合 (14組合)	100% 15者 15者	- 【 】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度 の実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
70		地域連携型モノづくり人材育成事業 (再掲)	本県の窯業業界の振興を図るため、窯業技術者養成のための専門研修を実施する。	小物ロクロ科4名、素地釉薬科1名の計5名の研修生を受け入れた。				引き続き、窯業技術者養成のための専門研修と次年度研修生の選考試験(秋試験終了、冬試験を2月予定)を実施。				(再掲)	工業技術総合センター	65
				窯業技術者養成研修受講者数(毎年)	8名 (5名)	8名 (7名)	11名 (7名)	7名 (7名)	71% 5名 (7名)	7名 【R02年度】	-			
71		青年農業者等育成確保推進事業費	就農に向けて、相談から定着にいたるまでの一貫した支援体制を整え、次代の優れた本県産業の担い手の育成確保を図る。	○就農相談員の設置 (公財)滋賀県農林漁業担い手育成基金に就農相談員を設置し、就農相談を行った。 ○就農準備講座の開催 就農希望者を対象とした就農準備講座を2回開催した。				○新規就農者は継続して確保する必要があるため、引き続き就農相談員による就農相談活動を推進していく。				9,210	農業経営課	-
				就農相談員による相談件数	- (-)	103件 (年間120件)	110件 (年間120件)	129件 (年間120件)	114% 137件 (年間120件)	120件 【R02年度】	-			
72		未来の養蚕創造プロジェクト事業	本県における繭生産に向けた養蚕業の復活および今後の展開の方向性について検討する。	○桑栽培および蚕飼育の技術習得に向けた支援を行った。 ○養蚕について、生産技術が向上し、収量の安定が一定図られるようになった。 ○繭などの生産物の利活用等について検討が行われた。				○引き続き、桑栽培および蚕飼育技術の習得について、これまでに得られた課題等を踏まえ、支援を行う。 ○繭などの生産物の新用途の検討などについて引き続き支援を行い、養蚕業の収益性向上をめざす。				800	農業経営課	-
				養蚕取組組織数	- (-)	- (-)	2組織 (3組織)	2組織 (3組織)	- (3組織)	【 】				
73		大家畜技術指導事業	近江牛生産農家に対して技術指導を行う。	○黒毛和種繁殖雌牛の飼養農家に対して、母牛や子牛の飼養管理に係る技術指導を実施した。				○近江牛の安定生産を図るため、飼養管理に係る引き続き技術指導を実施する。				409	畜産課	-
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲	
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考				
74		家畜衛生対策事業	家畜衛生の推進に向け、管理体制の整備や衛生指導を行う。					○畜産農家の巡回などにより、家畜疾病の検査等を実施するとともに、家畜衛生に係る飼養管理等を指導することで生産性の向上に対し支援した。	○安全・安心な畜産物を安定的に生産するため、引き続き家畜疾病の予防指導を実施し、生産性の向上を図る。				3,102	畜産課	-
				-	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	【-】	-			
75		選ばれる「近江牛」づくりチャレンジ支援事業	多様化する消費者ニーズに対応するため、脂肪交雑の格付けだけでなく、脂肪の質や風味等新たな価値観で選ばれる近江牛づくりを推進する。					○近江牛の繁殖に初めて取り組んだ農家2件に導入支援を行った。	○引き続き、消費者に求められる近江牛の地域内一貫生産の推進に取り組んでいく。				1,520	畜産課	-
				-	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	【-】	-			
76		創 拡 しがの漁業魅力発信スキルアップ事業	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、担い手の販売スキル向上のための意識醸成、学びあいの場を提供するとともに、就業希望者の受け入れ態勢の充実、湖魚取扱い情報の発信を図る。					○担い手自身がニーズを意識した漁業経営や情報発信等のスキル等の向上を図るため、飲食店等と連携して湖魚食材を使ったフェアを開催した。 ○漁業への就業相談、短期の体験研修、半年間程度の漁労技術等の研修を実施した。 ○琵琶湖八珍等のびわ湖めぐみに関する情報を発信。	【課題】 ・担い手自身の経営スキルや情報発信スキル等の向上。 【今後の取組】 ・担い手と飲食店等とが連携した湖魚を使ったフェア実施や情報発信。 ・担い手の総合的な経営能力向上につながる機会の創出。				(再掲)	水産課	11 45 67
				新規漁業就業者(累計)	2人 (1人)	3人 (3人)	7人 (6人)	11 (10人)	200% 4人 (2人)	10人 【R07年度】	滋賀県農業水産業基本計画				
77		水産業の担い手育成委託	湖魚のPR催事の開催を通じて、水産業の担い手自身が水産業や湖魚の魅力の宣伝に必要なスキルの向上を図る。					○水産業の担い手自身が、琵琶湖の漁業と湖魚の魅力を伝える動画を制作中。	・今後は、担い手の総合的な経営能力向上につながる情報の提供、機会の創出を行っていく。				380	水産課	-
				-	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	【-】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲	
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考				
78		滋賀のくすり振興対策事業	経営者等を対象に市場展望と業界の今後の進むべき方向についてのセミナー事業に対して支援する。また、若い人材の育成・確保のための講習会等を開催する。									270	薬務課	-	
		ウ 未来の後継者確保に向けた小中学生や高校生等の地場産業等にふれる機会の提供(1事業)													
79		世界にひとつの宝物づくり事業	陶芸作家やボランティア等との協働により、子どもや障がい者が「土」とふれあい、モノづくりの喜び・感動や本物の芸術を体感できるプログラムを提供することにより、陶芸に理解のある次世代の人材育成を図る。										1,500	モノづくり振興課	86
										109%					
				「つちっこプログラム」の参加者数	11,067人 (11,000人)	11,956人 (11,000人)	10,670人 (11,000人)	8,825人 (11,000人)	12,029人 (11,000人)	11,000人 【R01年度】	総合戦略事業				

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲	
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考				
(5) 近江の地場産業および近江の地場産品に対する関心および理解を深めるための、普及啓発、多様な学習機会の提供等(12事業)															
ア 地場産業等への関心を高め、理解を促進するPRイベント等の実施(6事業)															
80	近江の地酒文化普及事業(再掲)	近江の地酒に関する魅力を発信し、県民等の近江の地酒に対する愛着を高め、地酒でもてなす機運を醸成することで新たなファン獲得や需要の掘り起こしを行い、滋賀への誘客促進や関係人口の創出を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ WebARの技術を活用し、近江の地酒をPRするコースターを作成。県内の飲食店やここ滋賀などに配し、地酒のファン獲得に繋げた。 ○ コロナ禍で直接的な商談が難しい中、オンライン等で各蔵元を紹介し、商談等に繋げるショートムービーを作成。 ○ 「滋賀地酒10,000人乾杯プロジェクト」をオンライン配信により実施し、昨年を上回る11,109人の参加があった。 					<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍で、直接的なイベントや商談が難しい中、オンライン等も駆使し、効果的に近江の地酒の魅力を発信していくことが必要。 ○ 令和3年度末(4年度当初)には、「GI」の取得を予定しており、「GI」取得を一つの契機に、取組を促進していく。 					(再掲)	観光振興局	6
			<ul style="list-style-type: none"> ・「滋賀地酒10,000人乾杯プロジェクト」参加者 10,000人 ・酒造組合のSNSフォロワー数 10,000人 	- (-)	- (-)	・1,050人 ・3回 (2回)	・10,597人 (10000人)	111% ・11,109人 (10000人)	【10000人】	R02から新たな目標を設定					
81	しがの地産地消・食育推進事業	県域および各地域の地産地消推進会議の開催や農業体験等による食育活動により、地場農産物の生産拡大と地域内流通および農からの食育を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地産地消等を推進する会議の開催 のべ10回 ○ 食育体験等の促進支援 1団体への補助 					<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後とも、県域および各地域の地産地消推進会議の開催や農業体験等への支援し、地場農産物の生産拡大および農からの食育を促進する。 					358	食のブランド推進課	-
				- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-					

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
82		近江米消費拡大推進事業 (再掲)	関係団体等と連携し、世代やターゲットごとに新たな食べ方提案やエビデンス等に基づいた近江米の魅力を発信する。また、消費者が自ら近江米の魅力を発信することで近江米のファンをさらに広げる。	○ラジオ生放送特番 (11/6放送) 近江米PR隊長による近江米や米食の魅力をPR ○「#わたしの近江米」ラジオコーナー (8/20～11/5) 計12回 ○「#わたしの近江米」写真投稿キャンペーン (8/10～10/31) 投稿数126 ○動画コンテンツ作成 子育て世代向け (9/1 YouTube公開) 若年層向け (2/10 YouTube公開)				○全国的に米の消費量は年々減少減少しており、特に家庭や若年層の消費の減少が顕著であることから、今後も県内での消費拡大PRイベントの開催やインターネットを活用したPR等により、より熱心な近江米のファンを確保する。				(再掲)	食のブランド推進課	9
				消費者によるSNS等への近江米魅力発信の投稿数	- (-)	- (-)	- (-)	415 (-)	108% 541 (500)	1500 【R05年度】				
83		”ブランド近江牛”流通パワーアップ事業 (再掲)	近江牛の流通を拡大するため、県内外での広告等によるPRを行うなど、関係団体が実施する近江牛をPRする取組に対して支援する。	近江牛の関連団体が実施する、近江牛販売キャンペーンの実施や販促につながる冊子の作成など、近江牛販売店等関連企業の活性化につながる取組に対して支援した。				新型コロナウイルス感染持続により、外食産業やインバウンドでの需要が激減する一方で、通信販売やふるさと納税による需要が増えるなど、近江牛の消費動向も変化しつつあることから、今後の社会情勢を注視しながら、時代の変化に対応した効果的な流通拡大策が必要。				(再掲)	畜産課	10
				近江牛の指定店舗数	307店舗 (282店舗)	296店舗 (315店舗)	303店舗 (320店舗)	289店舗 (300店舗)	97% 292 (300店舗)	300店舗 【R03年度】				
84		文化施設管理運営費	県民が文化芸術活動を行う拠点となる県立文化施設(文化産業交流会館)について、事業の実施および施設の管理運営等の業務を指定管理者が行うための管理料等を支出する。	○指定管理施設である文化産業交流会館において、滋賀県北部の伝統産業を活かすという観点を踏まえ、継続的に邦楽・邦舞の振興に取り組んでおり、特設舞台「長栄座」において、邦楽・邦舞の奏者・演者が、「むすひ」をテーマに公演を実施した。またその際、ロビーにおいて「近江のあたらしい伝統産業展」を実施し、湖北地域を始め滋賀の伝統工芸品や名産品の展示および販売を行った。				○令和4年度は、令和3年度に引き続き「芝居小屋『長栄座』夏のフェスティバル」として親しみやすい作品の制作・公演を実施することで、滋賀の和楽器をはじめとする伝統産業への理解をさらに深めていく。また、「近江のあたらしい伝統産業展」を実施し、滋賀の伝統産業の魅力を次世代をはじめ、幅広い年代の方々に伝えていく。				321, 320	文化芸術振興課	90
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
85		舞台芸術地域協働事業	文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野に活かすため、舞台芸術公演を県内地域で展開することにより、県民誰もが文化芸術に親しめる機会の創出、また文化芸術の創り手やつなぎ支える人材の育成を図る。	親子向けオペラ「泣いた赤おに」の実施に際して、日野少年少女合唱団の衣装に近江の麻を、舞台の小道具に丁稚羊羹や政所茶、竜王の木製桶樽などを用いた。 公演前後には会場ホワイエにて、舞台上に登場した地場産品の展示・販売会を行い、開催地域（東近江地域）の魅力を変えて発信した。 ●来場者数：328名	地場産業を含む他分野との連携において、連携先や連携方法の幅が狭い点が課題である。 今後は、文化施設での取組にとどまらない様々な場所や分野との連携を図ることが必要である。	2,900	文化芸術振興課	91						
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			
イ 小中学生等が地場産業等につれ、理解を深める機会の提供(6事業)														
86		世界にひとつの宝物づくり事業(再掲)	陶芸作家やボランティア等との協働により、子どもや障がい者が「土」とふれあい、モノづくりの喜び・感動や本物の芸術を体感できるプログラムを提供することにより、陶芸に理解のある次世代の人材育成を図る。	○来園制作・見学の実施 対象：幼稚園～大学、障がい者、団体 内容：鑑賞、見学、陶芸体験 ○出張授業の実施 対象：特別支援学校、 内容：陶芸体験授業	○引き続き来園制作および出張授業を行っていく。陶芸作家やボランティア等の協働により、多くの方にプログラムが提供できるよう体制強化を図っていく必要がある。	(再掲)	モノづくり振興課	79						
				「つちっこプログラム」の参加者数	11,067人 (11,000人)	11,956人 (11,000人)	10,670人 (11,000人)	8,825人 (11,000人)	109% 12,029人 (11,000人)	11,000人 【R01年度】	総合戦略事業			
87		たんぼのこ体験事業	小学生自らが農産物を「育て」、「収穫し」、そして調理して「食べる」という一貫した体験学習を通して、農業への関心を高めるとともに、生命や食物の大切さを学ぶ「農からの食育」を推進する。	○小学校が行う農業体験学習への支援 ・県内小学校201/222校で事業申請	○県内全ての小学校で農業体験が実践されるよう、市町やJA等と連携して、引き続き「たんぼのこ体験事業」の活用を働きかける。	自治振興交付金	食のブランド推進課	-						
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度の実績値 (目標値)	平成30年度の実績値 (目標値)	令和元年度の実績値 (目標値)	令和2年度の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の最終年度】	備考			
88		創 びわ湖のめぐみ食文化継承促進事業	学校給食に湖魚が提供されることで、湖魚を食べる機会の増加、認知度向上や消費拡大を図る。	○学校給食への湖魚食材の提供と湖魚を学ぶ講座を実施した。				【課題】 ・給食での湖魚利用のさらなる拡大 ・食育活動とのより密接な連携 【今後の取組】 ・学校給食における多様な湖魚の利用を促進するとともに、新メニュー開発や研修会への支援、関係者に湖魚の利用方法などの情報提供、食育活動支援 ・琵琶湖漁業と湖魚料理を学べる体験学習会の開催				10,400	水産課	-
					- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
89		創 中学校チャレンジウィーク事業	中学校において5日間の職場体験を実施し、働く大人の姿にふれたり、自分の生き方を考えたりする機会とし、自分の進路を選択できる力や将来社会人として自立できる力を育てる。	・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、令和2年度に引き続き、令和3年度も多くの学校で職場体験が中止となった市町・学校がある。 ・全公立中学校中、16校で職場体験（3～5日間）実施				・コロナ禍の影響が大きく、例年通りの実施が困難な地域が多いため、学校や地域の実態に応じた柔軟な対応が必要である。 ・幼小中高等学校をつなぐ、発達段階に応じた系統的なキャリア教育の推進を図る。 ・地域の事業所等と連携を深め、事前事後学習の充実を図る。				225	幼小中教育課	-
				全公立中学校における地元の企業を中心とした職場体験を5日間程度実施した学校の割合	100% (100%)	100% (100%)	100% (100%)	2% (100%)	16% (100%)	100% 【R03年度】	-			
90		文化施設管理運営費 (再掲)	県民が文化芸術活動を行う拠点となる県立文化施設（文化産業交流会館）について、事業の実施および施設の管理運営等の業務を指定管理者が行うための管理料等を支出する。	○指定管理施設である文化産業交流会館において実施している小中学生向け事業「和のじかん」で箏や尺八の演奏を行い、和楽器とつながりがある伝統産業について学ぶ機会を提供した。				○邦楽の若手演奏家を小中学校へ派遣する「和のじかん」や「古典芸能キッズワークショップ」を実施し、子どもたちが和楽器をはじめとする伝統産業に触れる機会を提供できるよう取り組んでいく。				(再掲)	文化芸術振興課	84
				-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)				課題と今後の取組				決算額 (千円)	担当課	再掲
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度の 実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)	最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
91		舞台芸術地域協働事業 (再掲)	文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野に活かすため、舞台芸術公演を県内地域で展開することにより、県民誰もが文化芸術に親しめる機会の創出、また文化芸術の創り手やつなぎ支える人材の育成を図る。									(再掲)	文化芸術振興課	85
			親子向けオペラ「泣いた赤おに」の実施に際して、日野少年少女合唱団の衣装に近江の麻を、舞台の小道具に丁稚羊羹や政所茶、竜王の木製桶樽などを用いた。 公演前後には会場ホワイエにて、舞台上に登場した地場産品の展示・販売会を行った。 広報については、チラシを会場近隣学区に回覧配布したほか、近隣小学校7校に配布し、小学生とその保護者への広報に努めた。 ●「地場産業へ関心を持つ機会となった」と回答した12歳以下の児童：94.3% (n=53)	-	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- 【-】	-			

令和3年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況

通番	項目	事業名	事業概要	事業の実施状況 (R04.3月末)			課題と今後の取組			決算額 (千円)	担当課	再掲					
				指標	平成29年度 の実績値 (目標値)	平成30年度 の実績値 (目標値)	令和元年度 の実績値 (目標値)	令和2年度 の実績値 (目標値)	達成度% 令和3年度の 実績値 (目標値)				最終目標値 【事業の 最終年度】	備考			
(6) 近江の地場産業および近江の地場産品に関する実態についての定期的な調査および分析(1事業)																	
ア 近江の地場産業および近江の地場産品の実態について概ね5年を目安として調査を実施(1事業)																	
92		近江の地域産業振興総合支援事業(再掲)	地場産業組合等が実施するブランド力の向上、後継者育成、海外展開や販路拡大等の戦略的、持続的な取組に支援する。	<p>○地域産業総合推進事業 施策推進協議会、実態調査、地場産業表彰を実施した。</p> <p>○地場産業事業者等販路開拓応援事業 デザイナー等の専門家を事業者の元に派遣し、海外に向けたマーケットインでの商品開発や販路開拓の取組を支援した。</p> <p>○地場産業組合等指導支援補助金 滋賀県中小企業団体中央会が地場産業の振興を目的として行う新事業創出のための啓発活動や指導事業等に対して助成した。</p> <p>○地場産業組合等海外展開戦略等支援補助金 国内外の販路開拓や後継者育成に取り組んだ組合に対して助成した。</p> <p style="text-align: center;">等</p>			<p>・近江の地域産業振興総合支援事業については1/2の補助率であるが、零細な組合にとっては、1/2の自己負担を負担することが困難なところもある。</p> <p>・各組合が希望する補助内容は多岐にわたることから、組合だけではなく事業者の要望に直接対応できる支援の充実を検討する必要がある。</p> <p>・より効果的に実施できるよう、内容や発信方法について絶えず改善を続ける必要がある。</p> <p>・継続的、定期的に事業を実施することが認知度向上には重要である。</p> <p>・コロナによって展示会等を延期したものがあ</p>			<p style="text-align: center;">100%</p>			-	-	(再掲)	モノづくり振興課	4 27 69
				新商品開発等ブランド強化に取り組んだ事業者数	15組合 (10組合)	16組合 (12組合)	14組合 (12組合)	14組合 (14組合)	15者 (15者)	- 【 】							

近江の地場産品購入によるおもてなし向上事業費補助金

モノづくり振興課

6月補正予算額：50,000千円

目的

これまで地域の人々の生活に密着し、受け継がれてきた近江の地場産品と県内宿泊施設・飲食店の事業者を一体的に支援するため、滋賀らしいおもてなしを目的に県内宿泊施設・飲食店が近江の地場産品を購入する経費に対し補助する。

事業

補助対象者

宿泊施設・飲食店のうち「近江の地場産品」を購入し、当該施設において利用者のおもてなしに活用する事業者

補助対象経費

「近江の地場産品」の購入経費

・・・装飾品、調度品や食器など接客のために使用する物品

※「近江の地場産品」

・地場産業製品、伝統的工芸品、地域産業資源等

補助率

3 / 4

補助金額

1件あたり 上限 100万円 下限 1万円



近江の地場産品購入によるおもてなし向上事業費補助金の実績

産地等	林産業	地場産業					国指定・伝統的工芸品		
	琵琶湖材	浜ちりめん	湖東麻織物	高島綿織物	高島扇骨	彦根仏壇	近江上布	信楽焼	
件数	12	2	6	4	1	3	4	55	

県指定・伝統的工芸品						
産地等	大津絵 (大津市)	鼻緒 (長浜市)	湖東焼 (彦根)	江州よしすだれ (東近江市)	びん手まり (愛荘町)	八幡丸竹工芸品 (近江八幡市)
件数	2	1	6	7	2	3

総事業者数(者)	81
総事業費(円)	67,915,626
補助金額(円)	49,959,000

R3近江の地場産品購入によるおもてなし向上事業費補助金の実施例



近江上布



江州よしすだれ

信楽焼 浴槽

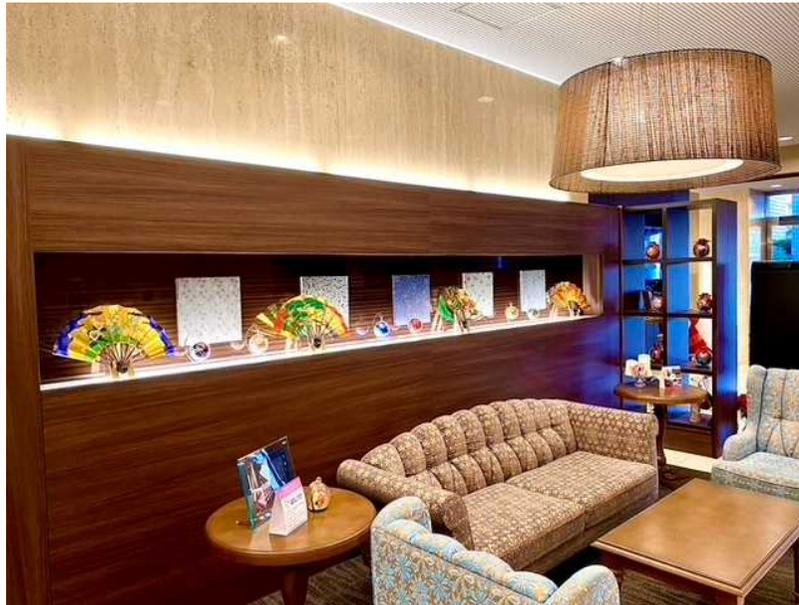


湖東焼 土鍋

高島ちぢみ



高島ちぢみ（全体）



琵琶湖材 カウンターチェア

びん細工手毬、高島扇骨